

## 善行者表彰（林田雅之氏）

～会社生活の終了後は障害者支援活動に～

今回、善行者表彰を受賞された林田雅之氏は、1976年トキコへ入社し、一貫してベビコン事業における新規事業の開発、立上げに従事。2007年7月トキコマレーシアの社長に就任。マレーシアで知的障害者の工場実習を受け入れたのを機に、会社生活を終えた後、障害者支援活動につきたいと考え、退職前から自宅のある地元企業(研進)にアプローチし、帰国退職と同時に就職した。



同社の出縄社長が林田さんの経験を考慮して、会社に取り組んできた「いのちの森づくり」プロジェクトを任された。(株)研進・(福)進和学園の「いのちの森づくり」活動は、2006年、故宮脇昭先生(横浜国立大学名誉教授)から先生が提唱される潜在自然植生理論に基づく「その土地本来の木による本物の森づくり」の植樹指導を頂いた。それを機にどんぐりや木の実から植樹用のポット苗を栽培し植樹を実践するプロジェクトがスタートした。

林田さんは、2013年に(日立産機)退職と同時に本活動に加わり、さらに世の中に普及させるべく2014年より学校・公共スペースへ植樹提案を行い、生徒と植樹をすることによる「環境」、生徒へ植樹の大切さ、植え方を教える「教育」、障害者の苗木栽培と植樹の仕事を確保する「福祉」の連携を作り出すことに尽力してきた。現在、地球的規模で温暖化が進行し、CO2(二酸化炭素)の濃度を如何に低減させるかが重要な課題とされ、人類共通の「環境」問題への対応としても樹木を植える活動は、非常に重要な活動である。いのちの森づくりの活動は、まさに ESG・SDGs そのものであり、第一線で活動していることに敬意を表す。これまでの提供苗木本数は13万本、出荷本数31万本を数える。

植樹の関係で小学校との付き合いが深く、地元平塚市の花水地区町内福祉村の「花水わくわく教室(小学生対象)」では進和学園の仲間と「どんぐりの育て方教室」を開催。また子供の時からマレーシア時代まで趣味の蝶類については造詣が深く、「アゲハの育て方教室」も開催している。3月17日(木)、表彰状授与のために、鈴木支部長はじめ3人で平塚市のご自宅を訪問した。マレーシアで採集されたたくさんの美しい蝶の標本を見せて頂き、氏の造詣の深さに感銘した。また、平塚市に住むインドシナ難民や日本語を母語としない市民に日本語を教えながら、生活のお困りごとを解決し、自立と共生を図ることを目的に活動している「カペラ日本語の会」の代表もされ、氏の幅の広い活動に改めて感銘を覚えた。(楠本安男記)

